

自治研修あきた

No.72

発行 平成27年 9月
発行者 秋田県自治研修所
TEL 018(873)7100

「自治研修所に求められていること」

秋田県自治研修所長 山口 武秀

今年4月の定期人事異動で、これまでの受講する側の立場から受講する方々の環境作りをする立場に変わり、今まで組織の意味づけは人作りと言ってきた手前、直接その立場になると、何ができるかと考えさせられました。

今年度の研修については昨年度から具体的研修内容が検討され、粛々とその予定を実行に移せば良いという状況ですが、これを機会に自分なりに、“今、研修所に求められていること”を考えてみました。

＜研修の目的とは＞

- ・ 地方自治体の行政を執行するのは職員であります。定期的人事異動などにより、(行政という)組織が要求する職員の能力の水準と、実際に配置されている職員の能力との間には少なからず乖離が生じています。
- ・ その差を縮小するために、また、取り巻く諸情勢の変化に的確に対応しなければならないことから、職員の「実務能力」と「潜在能力」といった能力の向上や、コスト意識、公務マインドを持った職員の育成を図ることが必要とされております。

＜そのための研修計画＞

- 1 研修ニーズ(要求水準と現実とのギャップ)の把握
- 2 研修体系

本県の研修は、研修所研修や職場研修(部局別研修、OJT)という組織内研修と、組織外研修(委託研修、派遣研修、自己研修)で構成されています。

グローバル化の進展、少子高齢化社会、発展のバランスがとれた中央と地方の在り方(地方創生)、先端技術の活用など、課題それぞれが一つの回答で対応・解決できるものではありませんが、改善のネタはたくさんあります。

そのためには、国際化に対応できる公務員が必要であり、また、文化(地域)、技術(ものづくり企業)の継承、その地域ならではの産業のあり方と行政の関わり方、必要とされる地方行政制度(自助、共助、公助:役割分担)、ICTを活用したこれからの公的組織のあり方など、職員一人一人が考え、提言できるスキルを身につける必要があります。それを獲得できる手段の一つが、「研修所」の役割のはずです。

これからも県民の付託にこたえていくためには、受講してみよう・しなければというような研修内容に改善を図り、世の中の変化に対応できる人財の育成に努めていかなければならないと考えておりますので、今後ともよろしくご協力をお願いします。

役立ちます！ 研修



*仕事上のお悩みに対して、ヒントを研修内容からお伝えします。



あなたの価値観はどう？

今はスピードの時代。60点の完成度でもいいのでスピード感を持ってPDCAサイクルを何回も回したほうが良いと思っているのですが、上司はじっくりタイプで100点を求めてきます。意見がぶつかってしまうばかりで、先に進みません。どうしたらいいですか？



ヒント

人によって価値観は違います。価値観に善し悪しはなく、自分に大事にしたい価値観があるように、他の人にも大事にしたい価値観があります。次の16の価値観の中から、自分の大事にしたい価値観トップ3を選んでください。次に上司の価値観を普段の行動から推測して、上司の価値観トップ3を選んでください。お互いを比べて価値観が近ければ、仕事はやりやすいでしょうが、たとえ価値観が違ったとしても、お互いの価値観を尊重しあえば、コミュニケーションがうまくとれ、お互いに仕事がしやすくなるでしょう。

【16の価値観】

- 成長 - 自分自身を継続的に成長させたい
- 自律 - 自分の意志で主体的にものごとを進めたい
- 達成 - 最後まであきらめず、目的や目標を成し遂げたい
- 責任 - 期待に応え、任された役割や責務を果たしたい
- 挑戦 - 失敗を恐れずに新しいことや難しいことに挑みたい
- 競争 - 勝負するなら、他者には負けたくない
- 創造 - 新しいことやものごとをつくり出したい
- 希望 - 夢やロマン、理想や志を追究したい



あなたのトップ3の価値観は？
上司のトップ3の価値観は？

- 堅実 - 地道に着実に、ものごとを進めたい
- 報酬 - 地位や名声、金銭などを勝ち取りたい
- 承認 - 自分の能力や行動を、他者から認められたい
- 専門 - ある分野に重点をおいて、ものごとに取り組みたい
- 協調 - 他者と協力し合い、一体となってもものごとに取り組みたい
- 貢献 - 一人から感謝され、他者や社会の役に立ちたい
- 誠実 - 正しく良いことを行い、真摯にもものごとに向き合いたい
- 安定 - 安定した状態や、保障のある生活を送りたい



～研修をのぞいてみよう～ 組織力向上研修

平成27年度から実施している組織力向上研修から「ブラザー・シスター研修」と「メンタルヘルス研修」についてご紹介します。



ブラザー・シスター研修 ～支えます、君のスタート！！

職場の基本ルールや日常業務の進め方など新規採用職員に対して身近なアドバイスを行う「ブラザー・シスター職員」を対象とした研修が実施されました。良き相談相手となるために必要なコミュニケーションの基本的な態度・姿勢・心構えなどを実習を通して学びました。

《研修からのお役立ちポイント》抜粋

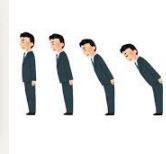
コミュニケーションにおける大切な態度・姿勢・心構えは？(ベスト3)

1. 話しやすい雰囲気をつくる(聴く態度)
→「頷き」、「相槌」、「合いの手」を！
相手の話を聴く姿勢を一番にし、相手に関心をもって！
2. 自分のことも正直に話す(話す姿勢)
→自分の考え、気持ちを素直に誠実に話して！
ブラザー・シスターは「人格的にも、キャリア的にも優れた手本」ではない。背伸びをせずにあるのままの自分で。
3. 支え合い、称え合う気持ちで接する
→相手に敬意をもって、相手の立場に立って行うように。



平成27年度 新規採用職員研修

新規採用職員として採用された県職員107名のみなさんが公務員としてスタートラインに立ち、仕事に対する心構えや取り組み方、基礎となる接遇・ビジネスマナーを5日間かけてじっくり学びました。ブラザー・シスターという強い味方に支えられて、今、頑張っています！！





メンタルヘルス（ラインケア）研修

管理監督職員を対象として、健康で明るく働きやすい職場づくりのために必要となるメンタルヘルスに関する研修が実施されました。メンタルヘルスの知識を身に付け、部下とともに気持ちよく働ける職場環境を整えるための方法を演習と事例検討を通して学びました。

※ラインケア＝管理監督者が行う部下等の心の健康を守る活動。

対して自分自身の心の健康を守る活動をセルフケアという。



《研修からのお役立ちポイント》抜粋

不調な方との関わり方は？（ベスト3）

1. 不調な方の味方に！
→「つらいね」、「苦しかったね」等の声かけを。相手の気持ちを受けて、伝えて。
2. 普通に接する
→腫れ物にさわるように、遠慮がちになるのではなく普通に接して。「何に困っているか」を聞く。
3. 深入りしなくてもいい
→「共倒れ」になるまでの深入りはしなくてもいい。環境を整えてあげる。

編集後記

2人のきこりの話。きこりAは、休憩もとらず多くの木を切るために全力を注いだ。しかし、1日が終わる頃には休憩を取り余裕を持っていたきこりBのほうが多くの木を切っていた。きこりBにたずねると、「どんなに作業が忙しくても斧を研ぐことだけはするようにしているんだ」とのこと。その言葉をきこりAに伝えたところ、返ってきた言葉は「こんなに忙しいのに斧を研ぐ時間がどこにあるんだい？」...

このお話の「斧を研ぐ作業」は、我々に「自分を高めるという行いの大切さ」を教えてくれている。（アレクサンダー・ロックハート『心に響く言葉』より）

皆さんはどう考えますか？ あなたの斧を研ぐために研修にお越しく下さい。

自治研修あきたNO.72をお届けします。

（教務班 棚橋）